

東北大学関東良陵同窓会

春季総会のご案内

新緑の候、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学良陵同窓会関東連合会春季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご家族ご同伴にて、ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を里見 進先生（昭和四十九年卒、東北大学総長）にお願い致しました。

テーマは現在問題となっている「東北復興・日本新生の先導」「ワールドクラスへの飛躍」（講演要旨後述）と題してご講演をして頂きます。

懇親会のアフターディナーコンサートは、ヴァイオリニストの加藤幸子さん、ピアノリスト、ブートワ・ラーダさんをお迎えして、パガニーニ等の名曲（曲目等後述）、をお楽しみいただく予定になっております。

薫風の季節にふさわしい充実した総会になるものと思えますので、奥様はじめご家族の皆様ともども、ご出席をくださいますよう、皆々様のお越しを心からお待ち申し上げます。

東北大学良陵同窓会

関東連合会 会長

押田茂寛

総会プログラム

一、期日 平成二十六年六月十四日（土）

二、場所 市ヶ谷私学会館アルカディア

電話03(3261・9921)

JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩二分

三、受付開始 午後四時より

四、総会 午後四時三〇分より開会

開会の辞

会長挨拶

経過報告

各役員報告・その他

閉会の辞

五、特別講演 「東北復興・日本新生の先導」「ワールド

クラスへの飛躍」

里見 進先生（昭和四十九年卒 東北

大学総長）

六、懇親会 午後六時より開会

アフターディナーコンサート

ヴァイオリン 加藤幸子さん

ピアノ ブートワ・ラーダさん共演

会員 一〇〇〇〇円

ご家族他 五〇〇〇円（二人）

八、出席申込み 総会費納入が総会ご出席の申し込み

になります。

（会費納入方法 本総会会費及び平成二十六年分会費三千

円の納入を同封の振替用紙にてお願いします）

特別講演要旨

「東北復興・日本新生の先導」「ワールドクラスへの飛躍」を目指して

里見 進

(昭和四九年卒)

東北大学総長

東北大学の建学の理念として「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」があります。

私は二年前の四月の総長就任に際して、この建学の精神を尊重しつつ、私の六年の任期中の目標を表題の二つのことにしました。

「東北復興・日本新生の先導」を第一に掲げたことは言うまでもないことですが、私の任期中は、これを抜きには何も語れ写真左は、里見先生近影



ないとの思いからです。

三年前の東日本大震災では、東北大学も学生三名が津波の犠牲となり、建物や設備、また大切な研究成果を失うなど大変な被害を受けました。

本学は、この様な大震災を経験した歴史上初めての総合大学として新しい知を創造し、その力で被災地や国全体の復興・新生に役立つ義務があると考えます現在、震災直後に立ちあげた、「東北大学災害復興新生研究機構」の下に、①災害科学公債研究プロジェクト②地域医療再構築プロジェクト③環境・エネルギープロジェクト④情報通信再構築プロジェクトなどの、八大プロジェクトに加えて百を超えるアクションプランが進行中です。講演では、それらのうちのいくつかについて述べたいと思います。

「ワールドクラスへの飛躍」を目標に掲げることに關しては、すでに我々は、ワールドクラスであるとの意見も出されました。

確かにいくつかの分野では

世界トップクラスの研究成果が出ております。しかしながら、すべての分野を総合した時には、まだまだハーバードや、スタンフォード、ケンブリッジほど、世界の誰からも敬意を持たれるまでにはなっておりません。目標の実現に向けて、この二カ年の間に教育、研究、産学連携、社会貢献、ガバナンス改革などで取り組んできたことについてお話をいたします。

里見 進先生

略 歴

- 昭和49 東北大学医学部 医学科卒業
 - 同59 ハーバート大学研究員
 - 同63 東北大学医学部 第二外科講師
 - 平成7 同医学部第二外科教授
 - 同16 東北大学病院長
 - 同17 東北大学副学長などを経て、現在、東北大学 総長、国立大学協会副会長
- ほかに日本外科学会監事(前理長) NCD代表理事、国際移植学会、IASGO(国際消化器外科会員) 専門分野は、外科学一般、移植外科、肝臓外科。

第十六回 女医部会開催のお知らせ

首題の部会は、次の要領で開催されます。

日時 平成二十六年七月二十六日(土)午後六時より

場所 市ヶ谷アルカディア

講演 「眼瞼の痙攣・原因と治療」

講師 清沢源弘先生(昭53)

男性の先生方もご遠慮なく、ご参加下さいませようお願いします。

田中佐喜子 (関東良陵同窓会常任幹事)

若手会開催される

さる四月二十六日午後六時半から飯田橋「北海道」で開催された。本当の若手、北條大輔(平21茨城県立中央病院) 出口智基(平19国立がんセンター中央病院) 山口智広(平17医薬品医療機器総合機構) など平成生まれの各先生方が出席された。その他、押田会長夫妻、安田、高木、網倉、金生、柳沢の自称若手の各先生方も同席され久しぶりに再会した。今後も学年の枠を広げて若手会を盛り上げたいと思つた。

岩瀬 光

(関東良陵同窓会 幹事長)

里見総長並びに
大内医学部長と本会会員
根本、清水両先生が会見

去る四月十六日、関東良陵同窓会の常任幹事、根本 宏先生（昭四十一卒）と会員の清水允熙先生（昭和四十三卒）は、東北大総長室で二時間にわたり、里見総長大内医学部長と会見した。

会談の主旨は、医学部本部で発行している良陵新聞の記事に中国との「相互発展（交流強化）」衛生部北京医院が東北大を訪問一の見出しで、第二面のトップ記事として掲載されているのを根本先生が見たことがきっかけとなった。

その記事内容には、これまで同学院と東北大学が進めてきた医師、看護師の受け入れを続けながらさらなる交流を進めることを確認したとあり、中国との交流を強化すると報道されており、さらに本学医学部が現在、十三もの部局間協定を世界各地の病院や、大学と結んでおり、

学生の交換留学することを主とした交流を活発に行なっていて「世界の東北大学へ膨らむ期待」と小見出しが伝えていた。

これを見た本会の根本先生は、大学の寮、昭和舎で苦楽を共にした同窓の清水允熙先生を東北大医学部に紹介したいと大内医学部長に連絡をした。

清水允熙先生は、中国の精華大学医学部を初めとして同国多数の大学等で客員教授を務め、たびたび訪中をしている中国通の本会会員であり、その同窓生清水允熙先生を大内医学部長に紹介の便りを出したところ、里見総長も「ぜひお会いしたい」との返事がきて、当日の会談となった。

清水先生は、認知症治療の権威であり、薬に頼らない認知症の独特の治療で成果をあげており、静岡県御殿場に認知症の専門病院富士山麓病院（本紙四ページに後述）の理事長を務めている。里見総長、大内医学部長と根本、清水両先生の会見の内容は本紙四ページに紹介する。

アフターテイナー・コンサート♪

今回のアフターテイナー・コンサートには、ヴァイオリニストの加藤幸子さんとピアニストのブートワ・ラーダさんをお迎えして、パガニーニ、マスネーなどの音楽史の中に燦然と輝く名曲の数々をお送りいたします。最近、ますますヴァイオリン演奏の円熟味を増した加藤さんと息の合ったピアノのラーダさんとの優れた共演を会員の皆さまにお届けします。

なお、加藤さんの父上と亡き神津先生とは、親友でした。演奏者は、これらの曲を神津先生にも捧げたいと言っております。

フロファイル

☆加藤幸子

国立音楽大学ヴァイオリン科卒業 大阪フィルハーモニー交響楽団に入団して活躍した。ちなみに加藤幸子さんは、歌手加藤登紀子さんの実姉です。

☆ブートワ ラーダ

レニングラードコンセルバトワール卒業。ピアノの指導者としてロシアで活動している。

プログラム♪♪♪

パガニーニ・カンタービレ マスネー・タイスの瞑想曲

ラフマニノフ・ポーカリー

ホルムベスク。望郷のパラード

ベートーベン・ロマンスへ長調 その他



写真上：加藤幸子さん

写真下：ブートワ・ラーダさん

清水先生の認知症予防と実践してきた治療方法を高く評価

里見総長、大内医学部長と根本、清水両先生の会談は順調に進み、清水先生が長年にわたって、ご自身で行なってきた認知症予防、治療の話を総長と医学部長は、熱心に聞き、かつ、清水先生が実践してきた認知症の予防、治療の実績を高く評価した。

最後に里見総長から、次のようなコメントがあった。

東北大学は、医学部だけでなく他学部にも中国からの留学生が多くおり、彼らが留学を終了して国に帰ってから、各部門でリーダーとなって重要なポストについているのが、現状である。また、その人たちが、中国において、同窓会を開くほどの人数になっている。

それに伴って、これから医学部も中国との交流をますます深めて行き、世界の東北大としても飛躍したいので、ご協力をお願いしたいとのことであった。

有意義な会談に同席して

根本、清水両先生の会談に私も同席しました。東北大と清水先生は共に中国との交流があり、それがこの度の会談の縁結びになったのか、それとも魯迅先生がかつて東北大学で学間に励んだことのあるゆかりが縁結びになったのか、このたびの会談は非常に意義深いものとなりました。今まで清水允熙先生は十年間以上にわたって、中国の八カ所の大学をはじめ国立病院及び国際認知症協会中国委員会などと交流を深めてきました。

これからは認知症の分野だけではなく、その他の医学分野でも東北大学医学部と中国の大学とが協力し合うことが望ましいということと合意しました。

更に、大内医学部長からは、「清水允熙先生に東北大学医学部客員教授に」と言う要請がありました。

「今後、母校のために微力でもご尽力できる機会に恵まれたこと、非常に光栄に思っています」と清水先生は恐縮されていた。

松下英美 記

(富士山麓病院秘書室長)



写真上 懐かしの母校・魯迅先生の記念碑の前で
根本・清水両先生

高齡者の認知症治療に実績
富士山麓病院

御殿場市の美しく雄大な富士山を背景にした爽やかな高原に富士山麓病院の病棟がある。

この病院は、一九七九年に御殿場高原病院として開院した。

二〇一〇年、国際化に向けて富士山麓病院と名称を変更した。

これを開設した清水允熙先生は目標として、高齡者の認知症を改善し、さらにその進行を止めることをテーマに実践してきており、開業以来着実にその成果をあげてきた。

清水允熙先生プロフィール

昭和四三年東北大学医学部卒業



富士山を背景に建つ
瀟洒な富士山麓病院の病棟

- (医) 清陽会富士山麓病院 理事長
- 中国医学科学院 客員教授
- 清華大学医学部 客員教授
- 北京協和医学院 客員教授
- 中国中医科学院望京病院 客員教授
- 华中科技大学同济医学院 客員教授
- 湖北中医药大学 客員教授
- 湖北民族学院 客員教授
- 海南医学院 客員教授
- 海南三亜市民病院 特別顧問
- 国際老年痴呆協会 中国委員会
高級顧問

(医) 清陽会 富士山麓病院
〒412・0006
静岡県御殿場市中畑一九三二
電話0550・89・5671 (代表)

東北大学関東長岡窓会事務局
鎌倉市岡本2・2・1・704
T&F046745・0287